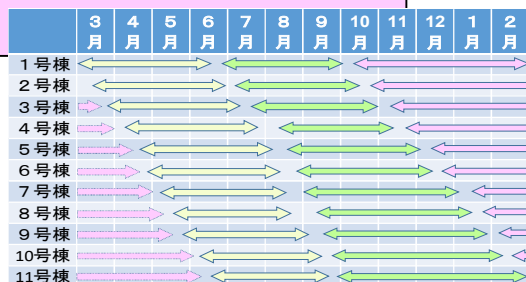


大規模施設園芸生産運営マニュアルの作成

国の次世代施設園芸導入加速化支援事業を活用して整備された次世代施設園芸埼玉拠点（以下、埼玉拠点）では、低段密植栽培によるトマト周年栽培が大規模施設で行われています。

2017年の開設から3年が経ったので、現時点までに埼玉拠点で得られた知見を「新たに施設園芸に取り組まれる方」や「ステップアップしたい施設園芸生産者の方」にも参考になるように「大規模施設園芸生産運営マニュアル～トマト低段密植栽培を例に～」としてまとめました。

＜実施概要＞年間約33回の作付で周年出荷（ハウス11棟3.3ha×年3作）
約100人のパート従業員を雇用



開設当初の
主な問題点

- ・収量が低い(病害の発生等で特に夏の収量が低い)
- ・作業の遅れ(作業量に見合った人員配置が難しい・作業精度が低い)

＜収量向上の取り組み＞

- ① 高温性ピシウム菌対策：施設等の衛生を徹底
- ② 高温対策：細霧冷房や白黒マルチを利用
- ③ 苗質改善
- ④ 培土の保水性の改善 等



＜作業効率化の取り組み＞

- ① パート従業員の教育担当を専任で設置
- ② 作業マニュアルの作成

作業名：誘引	作成日：2018.10.31 監修者：
作業の目的	トマトが倒伏するのを防ぎ、トマト全体に十分な光が当たるようにする
目標時間	2時間/往復(100m×2)
作業のポイント	・生長点や花を傷つけない ・作業・果実肥大の邪魔をしない ・左手と右手で違う作業を同時に進めることを意識する
使用するもの	作業場所にあるもの：誘引紐、クリップ、ココロ、オリコン 持っていくもの：特になし
作業手順と注意点	
<p>手順① 誘引紐を葉巻状にクリップを外し、紐を下に纏らす</p> <p>手順② (1) 誘引紐の先端を右手で葉の上にある誘引紐を葉の近くに引き寄せ、左手でマイカー線または道かチューブについてのクリップを外す</p> <p>※誘引紐を引くときは、葉を傷つけないように注意する</p> <p>※誘引紐のクリップが花や生長点に当たらないようにする</p> <p>※クリップで葉をつぶさない</p>	<p>（二回目以降はクリップを持っていく、またははずらす）</p>

3年目の成果（1年目との比較）

収量増加：収量が2倍になった（8～10月は2.5倍）
労働時間削減：生産物当たり総労働時間が36%削減された

作成したマニュアルは農研機構ホームページに掲載されています。
http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/134886.html

(次世代技術実証普及担当 TEL 0480-48-6804)